

# 政府方針は 患者負担の増加と社会保障費の抑制

負担額が増える対象の薬は、今後も拡大していきます

○ふだん処方される多くのお薬（痛み止めのロキソニン・湿布、花粉症治療薬のアレグラなど）について、これまでの窓口負担（1～3割）とは別に、薬の価格の25%分の負担を上乗せする法案が国会で審議されています。対象となる薬剤は、77成分・約1100品目にものぼります。

○さらに、対象となる薬剤は政府の匙加減で今後も拡大が可能となります。必要な時にお金の心配をせず安心して医療機関を受診できるよう、患者さんの権利を守るためにも、今のうちに薬の追加負担は止めなければなりません。

○若年者の保険料負担を少なくするために、新たな負担が必要と言われることもありますが、保険料の軽減は毎月33円、年間400円しか変わらないと厚労省は発表しています。

## 対象は約1100品目 このお薬も負担増の対象に

- 消炎鎮痛：ロキソニン
- 抗アレルギー薬：アレグラ60mg、  
フェキソフェナジン60mg
- 下痢（便秘）、制酸薬：マグミット330mg
- 去痰薬：カルボシステイン500mg

- 保湿剤：ヒルドイド  
ソフト軟膏／ローション
- ステロイド剤：リンデロン-V軟膏



負担増医薬品リストはこちら→



### ❌「市販薬は安い」は正しくない

ドラッグストアで購入できる市販薬は、製薬会社がいつでも自由に金額を変動できます。

一方、医師から処方される保険適用の薬は、健康保険法で価格が抑えられており、いつでも一定の負担額で処方されるようになっています。

医療機関を受診して処方を受けるOTC類似薬は、患者さんの健康を守り続けるために必要なものなのです。

ストップ！  
薬の負担増額！



### OTC類似薬って何？

OTCは「Over The Counter（オーバー・ザ・カウンター）」薬を対面販売すること。医師の処方箋がなくても薬局やドラッグストアなどで購入できるように成分調整した医薬品を、OTC医薬品と言います。それに対して、OTC医薬品に有効成分や効果が似ていて、購入に医師の処方せんが必要な医療用医薬品をOTC類似薬と呼びます。

埼玉県保険医協会

〒330-0074  
さいたま市浦和区北浦和4-2-2  
アンリツビル5F  
電話 048-824-7130